

診断士会の活動状況

既存コンクリート構造物の維持管理の重要性が叫ばれる中でコンクリート診断士の重要性が高まりつつある。北陸では福井で04年3月に全国初となるコンクリート診断士会が発足、以降、新潟、富山、石川にも診断士会が発足して積極的な活動を行っている。そこで、今回は石川・福井両県の診断士会の活動状況を紹介する。

石川 社会貢献で認知度向上

県職員向けに基礎講習

石川県コンクリートは正会員60名、賛助会員2名(個人)、法人会2名(個人)、法人会2名(個人)で構成されている。さらに今年1月にはマは「コンクリートの診断士の認知度向上や診断技術の研鑽を目的に活動している。現在例や材料・工法に関する講習会や現場視察見学会を開催、同診断士は講師を派遣した。テーマは「コンクリートの基礎知識および現場施工の留意点」新設のコンクリート技術講習留意点をミックスと後で

こんなことが起きます。県や市町村の職員を対象に行われ、主に新設のコンクリートに重点を置いた内容で材料・施工・品質管理などの基礎知識から配合計画書などのコンクリートに関する書類の留意点などを学んだ。講習会には150名が参加するなど好評で、10月にも既存構造物の劣化、調査、補修に軸を置いた技術講習会を予定している。

「設立から5年目になるが当初は資格取得後のレベルアップを目的にした研修を進めてきた。今後は外部に対しても積極的に働きかけ、社会貢献を果たしたい。コンクリート講習会は継続していきたい」と奥田由法会長。

新潟、富山、福井の各コンクリート診断士会にも昨年度から情報提供を進めている。昨年9月に開催した北陸自動車道渋江川橋で開催した現場見学会には福井、富山からも参加者を得て、高速道路上の既設橋梁の床版補修工事や撤去した床版の劣化損傷度の観察を行った。同診断士会では今後も3県との積極的な連携を図っていく考えだ。

地域ごとに技術確立 官庁事業に会員派遣

福井

福井県コンクリート診断士会はコンクリート診断士の社会的地位向上を目的とする全国初の団体として04年3月に発足した。現在の会員は正会員64名、法人会員12社(個人1名)。「コンクリート診断士は資格がありながら認知度が低かった。社会的に必要な存在として認知してもらおう。それには単独で動くよりも団体として動いた方が効果的と考えた」と石川裕夏会長は設立の経緯について話す。

日進月歩の各種診断技術の講習をはじめ、官公庁の事業に会員を派遣するなどの協力事業も行っている。これまでに福井市、敦賀市、鯖江市の橋梁長寿命化計画策定委員会のほか、福井県の橋梁塩害対策検討委員会などに参画し、橋梁調査・点検に対する助言などを行っている。さらに7月30日には福井県の職員を対象に技術講習会を予定している。内容は今年10月からコンクリートの単位水量試験が県の仕様に盛り込まれることを受けて試験方法などの基礎的な知識について講習する。また、コンクリート診断士の資格取得を目指す人を対象に選択問題、論文問題の対策講座も実施しており、診断士会がその講師を派遣している。

同診断士会としては今後、一般市民に対して構造物の維持管理の重要性を訴えると同時に診断士の必要性もアピールしていく。「もう一度診断士のあり方、ビジョンを見つめ直すような内容でパネルディスカッションをやりたい。診断技術は地域性が高い技術。地域ごとに技術を確立してコンクリート構造物は地域で守っていかなければいけない。その意味で診断士会は非常に重要な存在」として今後も積極的に活動する。